

平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家リレーションシップ事業  
「びえい冒険キッズ」事業報告書

1 事業実施の背景

本事業は、自然体験活動のノウハウを持つ交流の家と、美瑛町民の学びの場を提供する公民館の共催事業であり、美瑛町の子供たちを美瑛町で育てるという目的を持って小学校 1 年生から 3 年生までを対象として実施し、今年で 3 年目を迎える。美瑛町の自然や美瑛町民との交流が持てる事業として毎回定員を超える申し込みがあり、人気事業となっている。事業の中では協力して食事を作る機会や、自分で身支度や片付けをするなどの自立体験が含まれており、1 泊 2 日という短い期間ではあるが、集団の中から学び、定着に結びつくことも多い。また、家庭では見せない、集団生活の中で育つ子供たちの変容を保護者に伝えたいという思いから親子事業へと繋げたものである。

また、親同士が交流できるプログラムを設定することで、子育てに関する交流のみならず学びの場につながることを期待して企画した。

2 事業趣旨

- (1) 美瑛の豊かな自然音中で野外体験活動を通して、親子の絆を深め、親が子供に対して積極的にかかわる子育て支援の機会を提供する。また、参加した親子同士が交流する中で、他の家族とのネットワークの構築を図る。
- (2) 公民館と協同で事業を行うことで、運営及び指導のノウハウを交流し、指導者の資質の向上を図る。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家  
美瑛町公民館

4 後援 北海道教育委員会，北海道小学校長会，上川管内教育委員会連合会，美瑛町

5 事業概要

- ・期日 平成 28 年 9 月 3 日（土）～ 4 日（日）（1 泊 2 日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家 美瑛町民センター
- ・対象 美瑛町の小学校 1 年生～ 4 年生の親子
- ・定員 20 組
- ・講師 国立大雪青少年交流の家職員  
美瑛町町民センター職員

6 目的の達成指標（アウトプット）

参加者の満足度

7 広報

美瑛町内の対象学年の人数分のチラシを配布。美瑛町の協力を得、町内の防災無線を使って事業の参加を呼びかけた。

8 参加者人員・類型

参加者 19 名（定員比 47,5%）  
内訳：親子 7 組、個人参加 5 名



④「交流②」(60分)

【講師 国立大雪青少年交流の家職員  
美瑛町町民センター職員】

親と子に分かれ、交流を行った。親は親同士のコミュニケーショントレーニングを行った後、子育てや、子供の読書の必要性や読み聞かせについて交流した。最後に子供が就寝する前に読み聞かせをする本を子供向け読書コーナーから選び、それぞれに読み聞かせを行った。

子供たちは体育館で、身体を動かす遊びをとおしてさらに交流を深めた。



⑤「十勝岳ハイキング」(120分)

【指導者：国立大雪青少年交流の家 職員】

軽登山の体験をしてもらうため、片道1キロを目途に十勝岳を時間内に歩けるところまで親子で歩いた。

がれ場の歩き方や、休憩の目安、持参するおやつや高山植物等について職員から説明を聞きながら歩いた。

登頂を目指すのではなく、軽く汗をかく程度の軽登山でも十分に楽しめることを知り、次はもう少し上まで登りたいなどという意欲につながった。

雨天時のプログラムとして、親子でテントの組み立て体験、火おこし体験、収穫したジャガイモを使った焼きいも体験を予定していた。



9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

・満足	大人 7	100%	子供	7	58.3%
・やや満足			子供	4	33.3%

(参加者の声)

- ⓐ 今回のように20人くらいがちょうどよい
- ⓑ 自由な時間もあってよかった
- ⓒ とても楽しかった
- ⓓ 友達ができた

(2) プログラム

・満足	大人 7	100%	子供	8	66.7%
・やや満足			子供	4	33.3%

(参加者の声)

- ⓐ 保護者交流プログラムがよかったです。
- ⓑ 山登りは初めてで、子供にはよかったです。
- ⓒ やったことのないことばかりだったからよかった。
- ⓓ 遊びが楽しかったです。

### (3) 事業運営

- |       |      |      |    |   |     |
|-------|------|------|----|---|-----|
| ・満足   | 大人 7 | 100% | 子供 | 9 | 75% |
| ・やや満足 |      |      | 子供 | 3 | 25% |

(参加者の声)

- ㊦町職員と交流の家職員の連携がよかった。
- ㊦ゆっくりできました。
- ㊦テンポがよかった。

### (4) その他参加者の声

- ㊦初めての参加でしたが、困ることなく楽しめました。ありがとうございました。来年も参加できたらと思います。
- ㊦とても楽しく、満足の2日間でした。人との出会いもとても貴重でした。ありがとうございました。
- ㊦ハイキングや読み聞かせなど、大人になっての体験がとても新鮮に感じられました。
- ㊦家では読み聞かせをすることがなかったので、本を読むことができてよかったです。
- ㊦米をたいたりカレーを食べたりして楽しかったです。
- ㊦カレーがおいしかったです。体育館でかわり鬼と色鬼と鎖鬼とドッチボールが楽しかったです。
- ㊦とんぼをつかまえてよかったです。

## 10 事業の成果

美瑛町との共催により、畑地を持たない大雪青少年交流の家の収穫体験に協力いただける方を見つけることができ、今後の事業の人材確保にもつなげることができた。また、交流の家職員と町民センター職員の4名で運営にあたることができ、余裕のある運営につながった。町民センター職員には十勝岳登山を体験したことで、登山を町民センター事業に活かす下地を作ることができた。親子事業としたことで、親の視点からは集団の中での自分の子供の様子を、また子供たちは家庭で普段見せない自分の姿(登山や友達との遊びなど)を見てもらえたことで、褒めてもらえたり、認めてもらえたりする喜びを体験することができる事業にもなった。この事業に対しての親からの評価はおおむね高く、特に親同士の交流では、コミュニケーショントレーニングを取入れたことにより、自己を開放していくなかで悩みや共感を生み出し、話す時間が足りないと感じられる状況であった。また、交流後に子供に接する態度も穏やかであった。

美瑛町に住みながらも、名産品である芋の収穫体験や、十勝岳登山など、なかなか体験することができないプログラムを用意したことで、子供も大人も改めて美瑛町のよさを発見することができる体験となった。調理ではお父さんやお母さんの活躍の場となり、子供たちの大人に対する尊敬の気持ちが見られ、親子事業のよさが随所に見られる事業となった。

## 11 事業の課題

今回、初めての親子宿泊体験事業であったために、参加人数の予想を誤った。子供単独では定員を超えていたため、親も事業に意識をもって見ているのだと考えていたが、事業に興味を持っているというよりは、子どもを預ける場所と捉えられていることが、今回のお誘い活動で見えた。今後、親子宿泊事業では、早めの周知、わかりやすい事業の説明等で、参加しやすいことを広報していくことが課題である。ただ、今回20名くらいが丁度よかったとの意見もあり、親同士の交流のしやすい人数を考慮しなくてはならない。

美瑛町との共催では、募集受付を交流の家にしたことで、参加者のお誘い等も大雪青少年交流の家が一手に引き受ける形になってしまったので、2か所からの発信を心がけた運営としていく必要がある。